

# 環境保護と脱炭素の賢い選択

COLUMN  
県内  
大学発  
経世済民

601

## 川口短期大

本学の観光系科目において、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除された10月以降、これまでの学内での対面授業のみから待望の教室外のイベントを取り入れ始めた。自然環境保護の大切さを学び、さらに自然を舞台にした観光促進につながる教育を取り入れるために今年3月に環境省との間で全国の大学機関としては2校目となる「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結して以来、待ち望んでいたものだ。

大学と同県内にあり、首都圏から最も近い国立公園を舞台にして自然への理解を深め観光にも活用しながら、その先にある気象変動の原因やそれが巻き起こす、さまざまな地球への悪影響に対して問題を直視し対策を講じ社会に貢献していこうというもので、ポストコロナを見据えて打ち出した新機軸である。10月上旬、1都3県にまたがる広大な秩父多摩甲斐国立公園への初めてのフィールドワークを実行した。秩父の険しくも整備

## 富吉 光則 ビジネス実務学科准教授



と聞き、これは秩父の入り口であつてその全景は果てしなく大きいことに驚かされる。

三峯神社は訪れる人に秩父の神々しいパワーを授け続け、われわれもその見えない力を頂いた。現地で見聞きして体感したことは、事前学習の何倍もの価値になり多くの気付きを学生に与えてくれた。

これに先立つて本学は環境省の推奨するCOOL CHOI CE(クールチョイス・地球環境保護のために行つ賢い選択という行動の指針)に賛同の意を示し、すでに実行可能な日常生活の中での「食品ロスをなくそう」と「CO<sub>2</sub>の少ない交通手段を選ぶ」とい

とみよし・みつのり 神奈川大学経済学部貿易学科卒業。旅行会社・エアライン関連勤務を経て非常勤講師を歴任後20年より現職。航空・宿泊・観光・ホスピタリティ等の観光ビジネス科目担当。観光庁「インバウンドの地方誘客促進」と「世界水準のDMO形成促進事業」の専門家にも従事。専門はAIと観光ホスピタリティ。

取り組み始めていたものの、今回の訪問により、現代の快適な生活を享受することで地球破壊の道に誘っている人間社会は、賢い選択と同時に、雄大な自然の恵みに感謝して生活していた時代に思いをさせ、日本人らしい規律正しさをもって生活自体を改めていくことも必要だと気付いた。

平和の上のみ立脚する観光、そのサービスとなる移動・食事・宿泊は、いずれも炭素を発生させた上に生み出されている事実。目を向け、ポストコロナで再生を急ぐ観光の景色と仕組みは、決して過去と同じであつてはならない。政府や企業による対策だけでなく、今後は個人レベルのゼロカーボンへの理解と実行が鍵を握る中で、まず旅行者自身が観光という行為にどう反映していくかを考えよう。簡単ではないからこそ観光学で明らかにすべき次の命題がここにあり、ともいえる。